

環境への取り組み



気候変動をはじめとした環境問題に対する取り組みは、企業に課せられた重要な社会的責務です。当社は、資源の有効利用、環境に配慮した技術・製品の研究開発やそれを用いた施工など、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。

大林道路の環境方針

私たちは地球環境保護への取り組みとして、地域を汚染から守り、資源の枯渇に配慮し、社会から信頼される会社を目指します

1. 法律や倫理に対して誠実な対応を行い、社会から信頼される会社を目指します。
2. 「もったいない」気持ちを大切に資源の有効利用を目指します。
3. 当社の環境技術を広め、住みたい街づくりに貢献します。

環境マネジメント

環境保全の取り組みを推進するため、社長をトップに全店環境管理責任者が本社・支店の全部門を統括し、ISO14001に基づき外部認証を受けた当社独自の環境マネジメントシステム(EMS)に則り、事業場独自の環境影響を評価し、環境負荷低減および環境事故の発生防止に努めています。

支店の各部門および各部署では環境目標を達成するための具体的アクションを中期経営計画で策定し実践しています。また、全ての現場において工事着工前の「施工計画検討会」で現場独

自の環境側面を洗い出し、環境負荷を低減するため、環境目標を設定します。EMSの適切な運用および継続的な改善を確実に実施するため、EMSの内部監査で確認・分析・評価し、有効性が確認できない場合、改善を指示します。年1回の外部審査により、EMSの適合性について客観的な評価を受け、認証を継続しています。

P.19 品質・環境管理体制図

従業員の環境意識向上のための取り組み

脱炭素社会の実現や循環型事業の展開、自然との共生を重要施策と位置づけて従業員への意識浸透を図るため、環境関連の時事問題をテーマとした「環境ニュース」の配信を行っています。

また、EMSで定める環境法規制一覧表に則って点検などを行うことで、法令遵守の意識向上を図っているほか、事業の環境影響評価に基づいた環境負荷を低減する目標を立て、日々の業務において環境負荷を意識し、低減に努めています。

気候変動への取り組み

2050年カーボンニュートラルに向けた目標を設定

大林グループでは、「Obayashi Sustainability Vision 2050」で掲げる「脱炭素」実現に向け、具体的な取り組みを推進しています。

また、2050年カーボンニュートラル実現に向け、2022年には温室効果ガス排出削減目標(2030年度目標)として、Scope1+Scope2で46.2%削減、Scope3を27.5%削減(ともに2019年度比)と設定し、パリ協定に整合した科学的根拠に基づく目標として、同年10月にSBT (Science Based Targets) 認定を取得しています。

当社でもこの目標の達成に向けて、GHGプロトコルに則り、CO₂排出量データの収集方法の検討と集計、および検証を行っています。

2024年度からは温室効果ガス排出量可視化システムを導入し、会社全体の排出量の把握から原因分析までワンストップ管理するとともに、拠点ごとにリアルタイムで現状を認識し、より実効性のある排出量削減施策の検討を進めています。

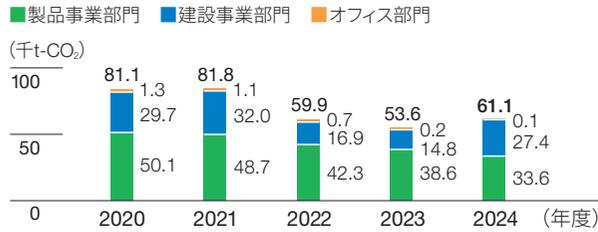
2024年度CO₂排出量 (Scope1,2) (単位：千t-CO₂)

	製品事業部門	建設事業部門	オフィス部門	計
Scope1	33.6	27.4	0.1	61.1
Scope2*	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	33.6	27.4	0.1	61.1

*マーケット基準で算定。非化石証書による削減分を反映

環境への取り組み

CO₂排出量(部門別)



*2022年度数値は遡及して修正

アスファルト混合所におけるCO₂排出量抑制に関する取り組み

製造時に使用する燃料の変更や原材料の適切な管理を行い、効率的なアスファルト混合物の製造・出荷に努めることで燃料消費を削減するとともに、CO₂排出量を抑制しています。また、全国5拠点を太陽光発電設備を設置し、電力の一部に使用しています。

また、当社ではアスファルト混合物の製造プロセスにおいて、骨材を乾燥加熱するためのバーナの燃料として廃食油を活用する取り組みを行っています。2023年10月の四国支店香川アスファルト混合所に続いて、2024年9月には九州支店熊本アスファルト混合所、2025年2月には東北支店郡山アスファルト混合所、同年12月には四国支店阿讃アスコンで活用を開始しました。当社では今後も全国のアスファルト混合所における代替燃料の活用を推進し、資源循環によるSDGsの達成にも貢献します。

太陽光自家発電量



*大分は理論値

CO₂排出量削減に貢献するフォームドアスファルト混合物

道路舗装工事に使用されるアスファルト混合物の製造時・施工時に排出されるCO₂の抑制は喫緊の課題となっています。そこで、製造時に発泡させることで、製造および施工時の温度を30℃程度低下させ、なおかつ一般的な混合物と同等の施工性と品質を確保した「フォームドアスファルト混合物」の活用が期待されています。当社では添加剤を使用せず水のみで混合物を発泡させる技術を導入し、一般的な混合物と同じ手順で製造できるよう改良した設備を各主要混合所へ随時導入し、今後の普及に向けた体制を整えています。

環境負荷低減の取り組み

大林道路の建設副産物対策基本方針

基本方針

全ての事業場において廃棄物処理法・リサイクル関連法等を遵守し、建設副産物の発生抑制、再生利用及び再資源化を促進すると共に、建設副産物を適正処理します

目標

1. 「建設副産物適正処理要綱」に基づき、管理体制を確立、維持し不適正処理を防止します
2. 事業系一般廃棄物の発生を抑制すると共に、分別により再生資源のリサイクルを推進します
3. 積極的な再生品(アウトレット等)利用によりリサイクル率を向上させます

廃棄物の適正処理

建設副産物および事業系一般廃棄物については、中央安全衛生統括責任者が建設副産物統括責任者の任に就き、建設副産物対策に関する会社方針を定めています。また、本社安全・品質環境部長は建設副産物統括管理責任者として会社方針を周知するとともに、本社管理組織を整備し、指導しています。本社安全・品質環境部は建設副産物適正処理要綱・手順書を整備し、

環境への取り組み

法令、行政庁の指導内容などを周知させ、特別パトロール時にチェック・指導を実施しています。

各支店では本社所管部からの通達に従い、会社方針と全社削減目標をもとにした支店方針と削減目標、および具体的な施策を決定し、廃棄物の適正処理と排出量削減に努めています。

— 施工現場から排出される建設廃棄物

所管部および関係部門が定期的に各事業場の安全パトロールを行い、建設廃棄物の管理と適正処理の確認と協力会社への適切な対応を指導しています。

施工現場から排出されるアスファルト塊・コンクリート塊などがれき類は、リサイクルプラントにおける中間処理を経て、再生骨材や再生路盤材として、ほぼ100%再生利用されます。その他の建設廃棄物については、処理能力や保管場所などの選定基準に合格した専門業者に委託し、法令に従って適切に処理しています。

工事現場より排出される建設廃棄物の内訳

■ 廃プラスチック 535t (0.2%)
 ■ 石綿含有産業廃棄物 138t (0.1%)
 ■ その他 6,299t (2.9%)

■ がれき類 212,056t (96.8%)



がれき類はほぼ100%資源としてリサイクル

— 施工現場から排出される廃プラスチック削減への取り組み

プラスチックは有用性が高く生活に不可欠な素材である一方、増え続ける排出量や環境に与える影響が年々深刻化しており、資源循環促進の重要性が高まっています。

現場から排出される廃プラスチックは、アスファルト混合物が付着しているためリサイクルが困難なものがありますが、できる限り分別し、適切な方法で廃棄しています。

廃プラスチック排出量削減に向けた取り組みとしては、施工現場から発生する廃プラスチックについて、前年度の発生量をもとに次年度の年間目標を設け、管理を行っています。2024年度の発生量は535.2tとなり、目標内に収まりました。2025年度においてもよりいっそうの排出量削減に努めます。

一方オフィス部門では、排出ごみの分別や生分解性プラスチック製品の利用を推進するなど、従業員の環境問題に関する意識の啓発を図っています。

施工現場より排出される廃プラスチック類の発生量 (単位：t)

	2023年度	2024年度	2025年度
排出目標	324.7	671.7	495.1
発生量	784.9 (0.0) *	535.2	

* ()内は石綿含有産業廃棄物量

— 化学物質の管理

化学物質の製造・取り扱いを行う全ての事業場では、化学物質による爆発・引火およびばく露による労働災害リスクを低減するため、安全データシート (SDS) に基づいたリスクアセスメントを実施し、保護具の必要性を検証し、作業手順に明記して関係者に周知徹底します。

— 大気汚染の防止

アスファルト混合物を製造する過程では、粉じん、ばいじん、窒素酸化物 (NOx)、硫黄酸化物 (SOx) などの大気汚染物質が排出されるため、可能な限り排出を抑えるべく、法令に則って定期的にその数値を測定して実態を把握するとともに、脱臭装置や排出抑制装置の導入といった措置を講じ、周辺的生活環境の保全にも取り組んでいます。2024年度も全対象物質において法定基準以上の排出はありませんでした。

また、PRTR制度*の届出対象物質であるメチルナフタレンについては、その排出量を毎年担当省庁に報告しています。

*人の健康や生態系に有害な影響を及ぼすおそれがあると法律で定められた化学物質について、事業所から環境 (大気・水・土壌) へ排出される量および廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を国に報告する制度

PRTR法対象物質の排出量 (単位：t)

物質名称	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
メチルナフタレン	0.42	0.35	0.38	0.38

— 水資源の保全と適切な排水処理

当社では、水の使用量削減に取り組むとともに、水質汚濁防止法を遵守し、適切な排水処理で環境保全に努めています。アスファルトを含めて鉱物由来の物質を扱う事業所や、付近に川や農業用水が流れる拠点の敷地内を中心に、pH値の定期的な検査を行っています。

環境への取り組み

— アスファルト混合所の取り組み

アスファルト混合所においては、雨などの影響で排水に機械からの油分が微量でも含まれないよう、油水分離槽を経由して排水します。一部の混合所では、沈砂池をとすことにより、周辺の水環境にいい配慮をしています。

アスファルト混合所での粉じん対策用の散水に用いる水は、pH値を管理した上で使用していますが、散水後の水がpH値排水基準を超えている場合は、中和装置を用いて中和するなど、排水処理を徹底しています。

また、アスファルト混合物の付着防止材には生分解性を有する植物由来の製品を導入することで、環境負荷低減に努めています。

2024年度に油流出事故が1件発生しましたが、環境に影響を及ぼさないよう早急に処置を行うとともに、原因を究明し、適切な再発防止措置を行っています。その後も点検やパトロールを徹底させています。



排水処理の仕組み
(例：大分センターアスコン敷地内の沈砂池)

— 技術研究所での取り組み

当社技術研究所の実験室においても、使用した水は全て一時貯留槽を経て中和槽に移し、pH7程度に調整後、排水しています。

当社単独での定期的な自主検査に加え、大林グループ技術研究所全体での月2回の排水検査は外部機関をとおして実施しており、いずれも排水に有害物質が含まれていないことを確認しています。

— 施工現場での取り組み

工事現場での清掃や粉じん対策に用いる水は、雨水を水槽タンクに貯留して使用しています。

また散水はpH値を管理した上で行っていますが、散水後の水がpH値排水基準を超えている場合は、中和装置を用いて中和するなど廃水処理を徹底しています。

生物多様性や自然環境への配慮

施工現場では、着工前の環境影響評価において生物多様性への影響確認を徹底し、着工後はコンプライアンスに従い、特記仕様書や環境法規制を遵守して作業にあたっています。また、野生鳥獣類の保護、生態系に配慮した施工スケジュール・建設機械の選定なども行っています。土地ごとの豊かな生物多様性や自然環境を将来世代に引き継ぐことは、われわれ世代の責務であり、今後も豊かな自然と共生する持続可能な社会の形成に努めます。

— 生物多様性や人権等に配慮された資材の調達

施工現場ではクリーンウッド法に適合した木材を調達し、違法伐採木材の利用を防止しています。また、舗装材の材料として拡張鉱物であるコバルトを使用する場合は、サプライヤーより提供されたトレーサビリティ情報を確認した上で調達しています。